

平成28年度 第47回千葉県中学校新人バスケットボール大会 総評

千葉県小中学校体育連盟他主催、千葉日報社他後援の第47回千葉県中学校バスケットボール新人体育大会は10月30日（日）、11月5日（土）、6日（日）の3日間、キッコーマンアリーナをメイン会場とした4会場で行われた。

男子のベスト4には、第1シード～第4シードになっていた4チームが、順調に勝ち上がり名を連ねた。準決勝は、両地区の名門校である八千代地区の大和田中対船橋地区の船橋中、千葉地区で前評判の高い草野中対印旛地区で危なげなく勝ち上がってきた成田西中のカードとなった。準決勝は2試合とも予想通りの大激戦となったが、辛くも勝利をおさめた船橋中と草野中の決勝戦となった。

男子決勝は、7年ぶりに優勝を狙う船橋中対初優勝を狙う草野中との対戦となった。お互いハーフコートマンツーマンで試合が始まる。船橋中は#4市場の3Pや#5草田のジャンプショットが決まる。一方、草野中は#4大橋のジャンプショットを中心に、#10のゴール下などが決まる。お互いオフェンスファールとなるほど果敢に攻める。草野中は#5田中のドライブやゴール下がよく決まり追い上げる展開。船橋中は#6小豆畑のポストプレイなどで応戦。1点差で前半を折り返す。

後半、草野中のファウルトラブルから、船橋中のリズムになり始め、#4市場の3Pやドライブがよく決まる。一方草野中も3Pなどで追い上げる。最終ピリオド、船橋中#4市場の勢いがなかなか止まらず、その差が開き始める。船橋中はフリースローを確実に沈めるなどし、そのまま試合終了。船橋中が7年ぶりの優勝を手にした。新人戦らしく、個人の技術が光る一戦となった。

一方女子のベスト4は、シードから順調に勝ち上がった新人戦10連覇を狙う市川浦安地区の昭和学院中、激戦区印旛地区からは2年ぶりの準決勝進出となる八街南中、八千代地区からは新人戦初の準決勝進出となった東高津中、ノーシードからシード校を破り勝ち進んだ市川浦安地区の市川八中が顔をそろえた。準決勝は昭和学院中対八街南中と、市川八中対東高津中の対戦カードとなった。決勝には、10連覇の新記録を狙う昭和学院中と、高い得点力が光る東高津中が進出した。

決勝戦は、決勝戦は10年連続優勝を目指す昭和学院中と、勢いに乗る東高津中の決勝戦。序盤、昭和学院中はオールコートマンツーマンプレス、東高津中はハーフコートマンツーマンでスタート。立ち上がり、昭和学院中は#6大城のレイアップを皮切りに、ゴール下で着々と得点を重ねる。一方、東高津中は#4白井、#7山口の1on1でオフェンスを展開しようとするも昭和学院中の堅いディフェンスを崩すことができない。最終ピリオド、東高津中は#7山口がバスケットボールカウントを取り、レイアップを決めるなど意地を見せるも、リードは縮まらずにタイムアップ。最後まで堅いディフェンスでゴールを守り抜いた昭和学院中が千葉県新人大会10連覇を果たした。

今年度の新人大会も、昨年度にも増して実力あるチームが代表として出場してきた。また、ミニバスケットボールで、全国レベルのバスケットを経験している選手の活躍が見られ、千葉県中学生のバスケットボールが全国で活躍することが期待される新人大会であった。最後まであきらめずにプレーし続ける、中学生らしいひたむきな姿勢には観客を魅了するものがあった。

最後に、TO指導や会場準備など、開催地区である葛北支部の役員の先生方、生徒の皆様、

支部外からお手伝いいただいた先生方、バスケットボール関係者の皆様のご尽力により大会を無事終わられたことに、心より感謝申し上げます。

文責 中体連バスケットボール専門部
報道委員会 中村 圭吾（四街道中）